

虹をかけよう！ 互いの未来に！



東日本大震災の発生を受け、1年間の延期を余儀なくされた第11回日韓親善会議が、8月31日～9月1日、東京・品川のホテルで開催されました。「虹をかけよう！ 互いの未来に！」と題し、日本から1,003人、韓国からは201人のロータリアンらが来日し、旧交を温め、両国の絆を確かめ合いました。

親善の礎として、姉妹クラブの促進に期待

初日は午後2時45分に開始。ロータリー旗、日韓両国旗の入場、日韓親善委員会委員長・今井鎮雄氏の点鐘に続き、東日本大震災での犠牲者に向け、参加者全員で黙とうすることから始まりました。今会議には、今年度の国際ロータリー（RI）会長・田中作次氏、韓国出身の2008-09年度RI会長・李東建氏が出席。初日は両氏のあいさつに注目が集まりました。

田中氏は「両国には多くの姉妹クラブがあり、協力して奉仕活動や交流も行っています。日韓親善会議は両国におけるロータリーの活動を紹介し合い、より平和な未来を共に築くために話し合う機会です」と述べ、会期中に行われるであろう盛んな交流への期待を述べました。



談笑する李東建氏（左）と田中作次氏

続いてあいさつに立った李氏は、日韓のつながりの深さを語ることから始め、「私は日本のロータリアンがロータリーのルールを守られてい

ることを尊敬しています。これは世界の模範となっており、韓国でも常々、日本のロータリーの運営の仕方を学ばなければならないと強調しています。一方で、日本のロータリーの会員減少は残念なことですが、私は日本の力を信じています」と日本の会員を鼓舞しました。

李氏も日韓の姉妹クラブについて触れ、「現状に満足せず、日韓で姉妹クラブを増やすよう提案したいと思います。日韓ロータリーの親善の礎になるからです。私たちはロータリーの中で友人であり、兄弟です」と強調。「奉仕を通じた平和が実現されることを願っています」と結び、満場の拍手を受けました。

実際に、会場外ロビーの「友愛の広場」には、日韓クラブの姉妹・友好締結をマッチングするブースが設けられ、締結を希望するクラブ同士の調整が盛んに行われていました。

この日はほかに、参議院議員・山東昭子氏による特別講演「これからの両国のきずな」、第2750地区多クラブ合同合唱団の「ロータリー・フェロシップ合唱団」によるウェルカムコンサートがありました。閉会後の晩餐会では、同合唱団と、韓国第3650地区の女性会員だけのクラブ、ソウルコーラスロータリークラブとのジョイントコンサートも行われ、会場を盛り上げました。

日韓の友好を、世界の希望の象徴へ

会議2日目は午前9時、東日本大震災後に復興支援のチャリティーを続けている和太鼓の会「鼓遊」が「被災地に送ろう心からのエールを」と題して、心に響く演奏を披露し、オープニングを飾りました。

この日、特に注目を集めたのは、前日に続き登壇した田中作次RI会長の講演「奉仕を通じて平和を」（本誌横組みP35～37参照）、元ロータリー財団国際親善奨学生であり、第8代国連難民高等弁務官、前国際協力機構（JICA）理事長を務めた、緒方貞子氏の特別講演「世界の人々のために」でした。

田中氏は講演で、日韓関係について「60年前の日韓の人たちに、このような会議がやがて開かれると言ったところで、信じてはもらえなかったでしょう。ところが今日、私たちはここにいます。自分たちが考えている以上に、私たちには世界を変える力があります。日韓が友好を築いてきたことは、世界の希望の象徴となることでしょう。どのような争いにも、常に平和への道があるはずですよ。今後もロータリーを通じて、奉仕を通じて、世界の平和に貢献していきましょう」と呼びかけました。

困難な時ほど大きくなる、ロータリーへの期待

続いて行われた緒方氏の特別講演は、終了と同時にスタンディングオベーションとなるほど、多くのロータリアンの心をとらえました。

緒方氏は冒頭、東日本大震災における韓国の支援に感謝するとともに、「日本が今回、支援を与えられる立場となったことが、今後、日本と日本のロータリーが世界を支援していく大きなモチベーションとなることを期待しています」と発言。



緒方貞子氏

JICA関係者として

の立場からは、戦後、発展を遂げた韓国に中国を加えた3か国の関係について「政府間で困難が起こったとしても、それが人々によって、よりよい解決に向くように話し合うことも可能だと思いますし、特に良識に富んだ民間の団体として、ロータリーの皆さんに対する期待というものは非常に大きいと思います。よりよい解決に向けたアイデア、方向性というものを、ぜひ日韓のロータリアンから出し続けていただきたい。元財団奨学生としてロータリーを見てきただけに、困難な時期ほど、ロータリーには期待させていただきたい」と述べました。

また、最近の日本人に対し、「国際人として多様性をもっと身につけなければならない」とし、「今、まさに日本で求められている多様性の認識、外国語の問題について、ロータリーこそ、発信の土台を強固に進めてくれる組織だ」と期待を寄せました。

その後の質疑応答では、「何がきっかけで、国際貢献に進まれたのですか」の質問に対し、緒方氏は「わかりません。時代の産物とお考えください」と答え、会場を沸かせました。「多様性を養うには？」の質問には、外国語習得の必要性を強調すると同時に、「一つは就職にも問題があるのではないかと考えています。一斉に採用試験が開かれ、同じような服を着た人の中から、企業側は同じような人を探る傾向があります。これが日本を強くしていた面もあるのですが、現在、それが日本を強固にしていると考え人はなくなりました。違った人がいて、多様な文化、理解力、視点がなければ、本当の先進国としての安定が進まないのではないかと思います。留学生が減ったと聞きますが、行く人も来る人も減ったら、どうなるのでしょうか。現代は交流なしでは暮らせないのでから」と語り、「この問題もぜひ皆さんで進めていただきたい」と、ロータリアンに対する多くの提案を残し、講演を締めくくりました。

日韓ロータリアンの結束を確認

その後も、米山学友の洪延周^{ホンヨンジュ}さんが昨今の日韓関係について「世界平和は一人ひとりの交流が全ての始まりです。交流を地道に続けていれば、いつかきっと変化は起きる」。韓日親善委員長の蔡熙秉^{チェヒビョン}氏は「日韓は歴史的に数多くの問題を抱えています。奉仕を通じて平和を求めるところこそ、われわれが進むべき道です」と発言。領土問題などを中心に日韓の関係悪化が懸念される折での開催でしたが、講演者や参加者からは一様に「こんなときだからこそ、ロータリアンとして奉仕にまい進し、平和の実現に向けて協力すべき」との声が聞かれ、むしろ日韓ロータリアンの結束を強めた大会となりました。

なお、次回は2013年10月上旬、ソウルでの開催が予定されています。

取材：『友』編集スタッフ 黒野 稔二・飯田亜由香



韓国語の歌も披露した児童合唱団のミニコンサート